

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：

企画名
茅葺き小屋プロジェクト
実施日
平成 30 年 6 月 1 日 (金) ~ 平成 31 年 3 月 31 日 (日)
実施場所
東広島市志和町志和堀 469
企画代表者の氏名, 所属
氏名： 神谷友理子 所属：工学部第四類
構成員の氏名
B166015神谷友理子 B154598生田海斗 M171117奥野和希 B165467冠野雅人 B162869谷川太一 B161567黒川大樹 B164663福島岳大 B180488城本大暉 B183026田中透弥
指導的立場の教員氏名
森拓郎准教授 (大学院工学研究科 建築学専攻)
企画の目的及び内容
(1) 企画の目的及び期待される効果 <input type="checkbox"/> 企画概要 茅葺き民家の保全を考える上での 3 つの課題 ① 茅葺き職人の存在 ② 茅葺き屋根の原料である茅の現地調達 ③ 茅葺き屋根の社会的認知度の向上 のうち、③に関する挑戦として、 屋根のみでなく壁などのあらゆる部材に茅を使った小屋を製作する。 <input type="checkbox"/> 目的 (1) 実体験から伝統を学ぶ (2) 一つの小規模建築の設計から施工までの一連の流れの経験 (3) 伝統技術の保全への貢献
来場者数
茅葺き談義 (茅葺き職人さんからの茅についてのレクチャー) : 20 人 茅場ワークショップ : 60 人
主催・後援団体 (外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模)

活動の内容（準備、広報活動、当日の様子等）

（１）茅葺き談義（茅葺き職人さんによる茅についてのレクチャー）

Facebook のイベントページ、地域での宣伝により集客し、茅葺き職人さんによるプロジェクトを用いたレクチャーを開催した。学生・地域の方共々、熱心にレクチャーを聞き、終了後には質問も多数飛び交った。レクチャー後は実際に職人さんと茅に触れてもらい、香りや感触などを体験してもらった。

（２）小屋の設計

茅葺き職人さんや地域の大人の方と、小屋の形態や施工方法を検討した。

当初矩形での設計が進んでいたが、竪穴式住居のような形態にしてはどうかという意見をいただき、変更することとなった。学生側は設計製図の授業で使っていた資料を用いて最適な寸法を図面に起こし、施工方法を職人さん・大工さんを交えて検討した。簡単に手に入る材料・学生のスキルでもできるやり方を一緒に考えていただいた。

（３）小屋の施工

学生のみで小屋の施工を行った。地面を水平にならすことから始まり、設計時に確定できなかった接合部分や細かい微調整を行った。時々地域の方が来てくださり、ここはこうしてはどうか、こんな材料を追加してはどうか、などといったアドバイスをいただいた。

（裏面に続く）

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書 (裏面)

アンケートの結果 (来場者にアンケートを実施した場合のみ)

成果・課題

学生による一からの企画・設計・施工であった。当初の予定が大幅に崩れてしまったのが次回への課題だった。設計に関しては、一通り製図の授業をこなしたつもりでいても、実際建てるための図面を引こうとすると材料は何を使うか、接合部分はどう施工するのかなど、わからないことだらけで非常に刺激であった。施工に関しても図面どおりにつくることが難しく、大工さんのような精密な施工ができないために誤差が生じ、その都度どうすればできるかを考えたので、現場での思考力がついたのではないかと思う。

また、茅葺き職人さんからはとても貴重な茅の知識を教えていただくこととなった。通常の茅葺き屋根の形ではないので、この小屋に合った葺き方を考案していただいた。茅の新たな活用という点でも、通常とは違う葺き方が生まれたことは、茅の活用に少しでも貢献できたのではないかと思う。地域の人とはイベントを通して交流し、地域にある貴重な茅葺きについて関心を起こすいい機会を提供できたのではないかと思う。

地域の方と交流する楽しさ、考える楽しさ、ものができていく楽しさ、様々な楽しさをメンバーが感じることでできる企画となった。

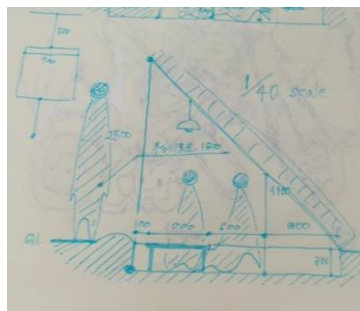
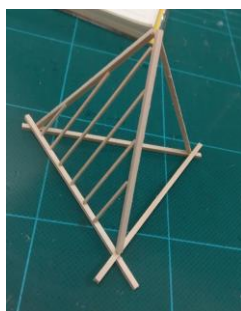
実施風景 (写真)



茅のレクチャーの様子



レクチャー後の茅体験



小屋躯体の模型・図面



小屋施工の様子

【提出方法】 指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。

E-mail でも受け付けます。

【提出先】 工学研究科支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)